

パセリ〔晩秋播き春夏穫り〕



(10アール当り)

時期	方法	資材と施用法
地力作り	なるべく早い時期に全面に投入して耕す (播種までに1ヵ月以上おくこと)	<ul style="list-style-type: none"> ●ラクトバチルス600グラム →排水・通気よく、保肥力のある土にする。 ●堆厩肥2トン ●硫安100kg (チッソ成分20kg) <p>※栽培期間が長いので、必ず堆厩肥をしっかり投入する。 ※このチッソは菌に摂り込まれて地力化し、播種時には必ずEC: 0.1~0.2程度に落ち着いている事。 ※通常、被覆または緩効性のチッソ肥料を使うことになっているが、それよりも微生物で地力化する方が確実。 ※このチッソ等は元肥にかわるもの。通常、元肥の20%程はウネ(ベッド)中央に溝施用することになっているが、全て全面散布する事。 ※必ず深さ30cmまで土壌pHを測定し、pH:6.0以下だった場合は、この時に畑の大将<青>も併用する。</p>
ウネ作り時	ウネ(ベッド)を作り、カルシウムを散布して、ポリマルチ(有孔・黒色)を被覆する	<ul style="list-style-type: none"> ●畑の大将<青> 100kg <p>※土壌pH:6.0~6.5、これを翌夏まで維持する。 (栽培中に決してpH:5.5以下にはならないように注意) ※パセリは地中海原産で、多量のカルシウムを要求する野菜。もしカルシウムが不足だと、軟腐や芯腐れが多発する。 【注意】 マンゾク・粒状(60kg)を施すと、冬季までに生長が進みすぎて花芽分化(抽臺)を起しやすい場合があるので、始めから強くカルシウムを効かせる。連作や線虫などの土壌病害対策は、根っ酵素液で行うのが無難。</p>
[10~11月] 播種時	播種後の灌水時	<ul style="list-style-type: none"> ●根っ酵素1000倍液を灌水 →発芽を揃え、直根を深く伸ばす。 <p>※酵素で、揃いにくい発芽を10日位(15日以内)に揃える。</p>
発芽揃い時	播種後10日頃	<ul style="list-style-type: none"> ●花咲くCa液1000倍を灌水 →過剰に展葉させないで越冬させる。
		<p>※11月中下旬のトンネル掛けまで、本葉1~2枚に抑えるためにチッソを効かせずCaを効かせる。 ※本葉3枚以上に生長した後に10℃以下の低温に2ヵ月以上あうと、花芽分化(抽臺)を起こす。寒冷地では遅植えを励行し、苗を大きくしない事。温暖地では不織布ベタ掛け等で、気温5℃以上を保つ。</p>

時期	方法	資材と施用法	
[3~4月] 間引き時	間引き後に葉上に散布	●根っ酵素500倍 散布 →残した株の発根、生長を促進。 ※特に本葉4~5時の間引き(2回目)で、1穴1本に株決めの後。	
[4月] 側芽摘み後	本葉10枚頃	側芽摘み、下葉かき後 ●花咲くCa液500倍を散布 →株を充実させ、ウドンコ防止。(この前後、トンネル除去)	
[5月上旬~ 8月頃] 収穫中	本葉12枚以降 右記を順に繰返し	7~10日間隔で3~4枚ずつ収穫し収穫直後 ●根っ酵素500倍を散布 →根から強く展葉促進。 ※根腐れ、根枯れ、青枯れ、疫病、未展開葉の枯れ込み、炭ソの対策。 その5日後 ●花咲くCa液500倍を散布 →葉に重み、香りを増す。(ウドンコ、軟腐の対策も)	
[6月下旬~] 追肥	半月ごと(3回)	●硫安40kg ●畑の大将<青>40kg	ウネ間(通路)に散布して、 灌水します。 原則として同量を同時に。

【注意】 温暖地で秋まで収穫の場合、また保温により翌春まで収穫の場合は、特に土のpHと根に注意。
高冷地の冬蒔き夏穫り栽培も、元肥と間引き後の施肥を上表に準じる。